

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	札幌市立山の手養護学校 小学部 6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが自らスポーツに関心をもち、体験してみようという意欲や観戦をしようという意欲を高める。</li> <li>アスリートの生活体験を聞くことで、日頃の生活管理に取り組む気持ちを高め、自らも何かに挑戦しようとする気持ちをもつ。</li> </ul>
5 取組内容	<p>○指導計画</p> <p>1回目 11月1日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピック・パラリンピックの意義を子どもと考え、講演していただく三澤英司さんの写真やパラアイスホッケーについて学んだ。</li> </ul> <p>2回目 11月2日～11月19日の期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちでオリジナルの競技を考えたり、ボッチャのルールを調べたりして、山リンピックを開催した。近隣の小学校の6年生を呼んで、一緒に競技を行った。</li> </ul> <p>3回目 12月13日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三澤英司さんをお呼びし、講演と交流体験を行った。パラアイスホッケーの競技についての説明と三澤さんが右足切断後どのような心境で今まで取り組んできたかを教えていただいた。子どもは、あきらめなで、挑戦し続ける気持ちの大切さを感じた。また、本物の銀メダルにふれさせていただき、その重さを実際に感じながら、アスリートに対する尊敬の念を深めた。</li> </ul> <p>4回目 12月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演と交流体験を通して学んだことを振り返り、自身のハンデキャップにくじけることなく、夢に挑戦する意欲を感じる事ができた。その感謝の思いをコメントカードに記して三澤さんに送った。</li> </ul>

○取組の様子



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パラリンピックについて学びすすめる中、様々なハンデキャップを負いながらも、一流のアスリートとして活躍している姿に興味をもつことができた。</li> <li>• 実際にパラアスリートに合って直に話を聞くことで、教科書や教材などで伝聞的に聞くよりも、より子どもたち心を揺さぶることができた。</li> <li>• パラリンピックメダルを間近で見たり持たせてもらったりすることで、実際に世界のトップアスリートであるという実感をもつことができた。</li> <li>• 一緒に運動交流を体験することで、選手への親近感が増し、三澤選手の素晴らしい人間性も感じることもできた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 冬季パラリンピックのアスリートのことなので、体育館では、実際の競技（パラアイスホッケー）の代わるスポーツとして車いすホッケーで体験交流を設定した。</li> <li>• 普段外で活動することのすることがあまりない子どもたちのため、なるべくパラアイスホッケー競技の様子が分かる道具と画像を用意していただいた。</li> <li>• 児童たちが三澤選手と親交を深めていけるように、三澤選手にも子どもたちのチームに入ってもらって体験交流を行った。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 用意していただいた映像や道具だけでは、パラアスリートの運動能力の高さや競技の楽しさが伝わりにくかった。</li> <li>• 総合的な学習の時間を活用して今回の取組を行ったが、様々な意義や内容を考えると体育科や道徳科で教科等横断的にさせる方が良かった。</li> <li>• 日程の希望提出から決定通知までの期間が長すぎて、年間指導計画に組み込みづらい。（後で年間計画の訂正が必要となった。）</li> </ul>
<p>9 今後の取組について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今年度の取組を活かし、オリンピック・パラリンピックについて子どもたち自身で情報を交換し合い、ボッチャなどのパラスポーツの体験を多くの小学校に広めていく活動を行う。</li> </ul>